

一茶俳句を英訳、冊子化

英語の恩師 地域の子どもらへ 荒井豊さん共著

志保屋書店店主 遠藤由明さん



志保屋書店(妙高市上町)の店主で英語教室講師の遠藤由明さん(73)は、地域で英語「トベ英語俳句 70句」(A4判カラー、27ページ)を子どもたちのために、冊子「一茶オノマシ」を作製した。恩師

一茶オノマトベ英語俳句 70句
Seventy Issa's Onomatopoeic English Haiku-poem
英訳翻訳: 荒井 豊+遠藤由明
Translated by Yutaka Arai & Yoshiki Endo

小林一茶の俳句を英訳、遠藤さん直筆「落書絵」が添えられた

「一茶の俳句を英訳、冊子化」の完成に当たり、校閲

「何のために勉強するかな」と遠藤さん。とりわけ一茶の俳句は「人間味がある。『何のために勉強するかな』と、原点に戻れるような気づきがある」と遠藤さんは2016年、荒井さんとの共同作業で「百人一首」の英訳を完成させている。今回は、大好きな英語と一茶のコラボレーション。17文字の表現が、シンプルな英語で生まれ変わった。俳句に合わせた直筆の「落書絵」がシニールで楽しい。

「一茶も『いいよ』と言ってくれている気がする」と話した。定価は1000円(税込込み)。問い合わせは同店(電0255-722-2025)へ。

みょうごう

地理しる

記者、みて歩き



上越の要衝感じる古社
斐太神社



斐太神社に参拝する。長く続く石段を上って社殿へ。境内はいつも、太古の雰囲気包まれている。大国主命、事代主命、建御名方命の父子3神を祀(まつり)、「出雲系」のたすまいがある。正式名称は、延喜式内斐太神社。平安時代初期の創建と伝わる古社で、長く朝廷から格式を認められてきた。斐太地区を中心に、長野県境から上越市南部まで、広い範囲に分布する216社の総社。

神社を含む一帯は、「斐太歴史の里」として整備されている。調査で明らかになった国指定史跡の斐太遺跡や観音平・天神堂古墳群、鮫ヶ尾城跡などがある。古来よりこの辺りは、上越地域の要衝であったことを感じさせる。

斐太神社の社殿